

★ 操 作 方 法 ★

マンガのページの上でクリックすると次のページを表示します。右クリックすると前のページに戻ります。

※ Macintosh で、マウスに右クリックの設定をしていない方は、キーボードの「control」キーを押しながらマウスをクリックすると前のページに戻ります。

※ iPad では、上下スクロールでご覧いただけます。





実は私も探しているんですよ
青光石を



ああ確かに天海だが
どうしてわしが青光石を
探していることが
分かったのかね？

ほう



無理だよ
いくら探しても
見つからんよ



私も興味が
あるもんで



どうです
これからは二人で
探しませんか
天海さん

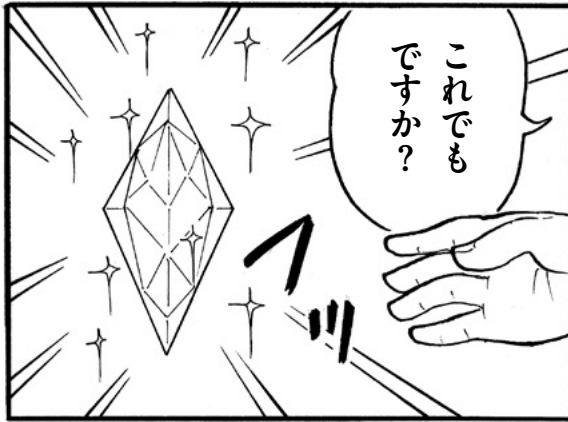


それがそうでも
ないんですよ
青光石がありそうな
おおよその場所が
分かったんです

本当かね

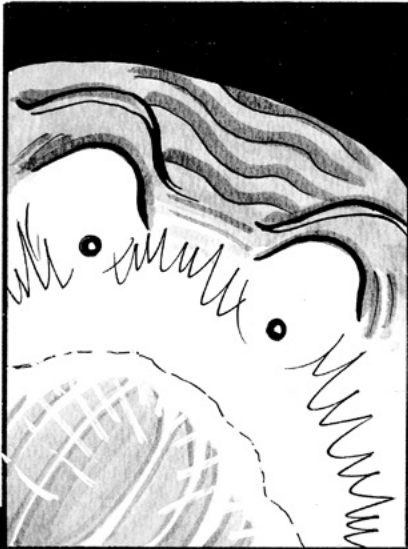


そんなに簡単に
分かるはずが
ないと思うが…



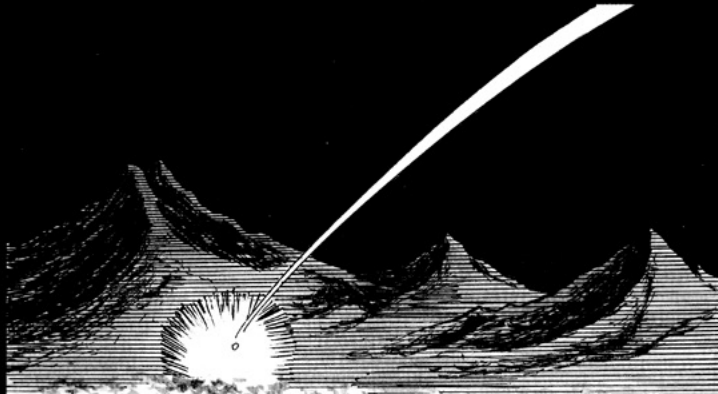




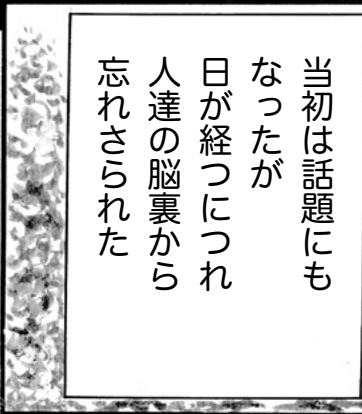
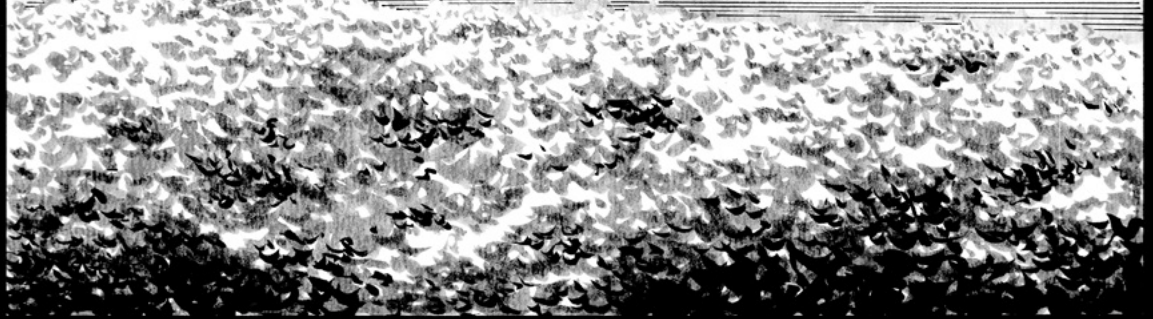


まあそんなことは
どうでもいい
これが本当の
青光石なのか？

調べりや
すぐ分かる
ことだ

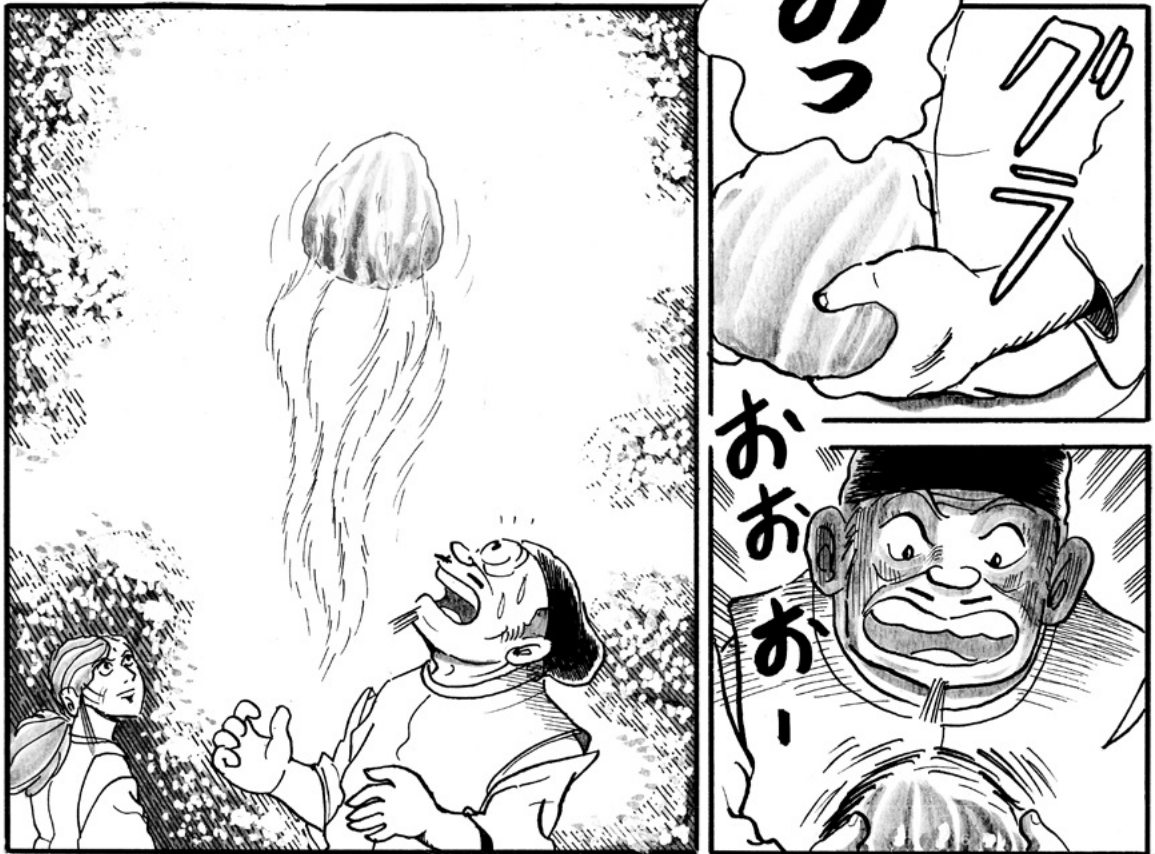
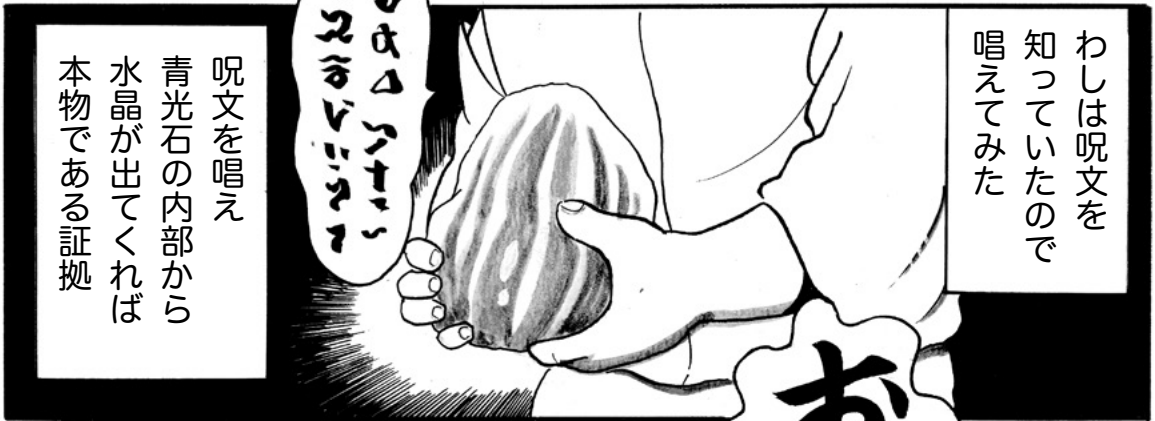
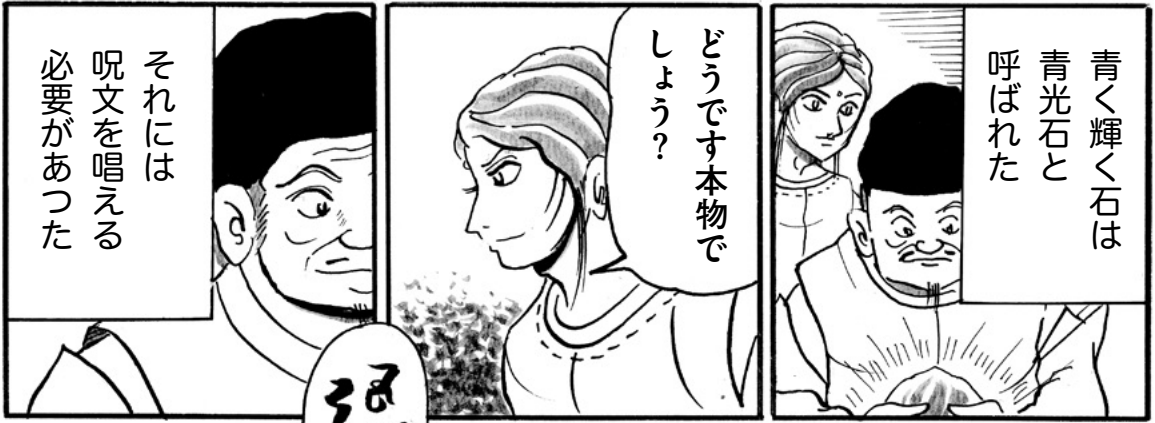


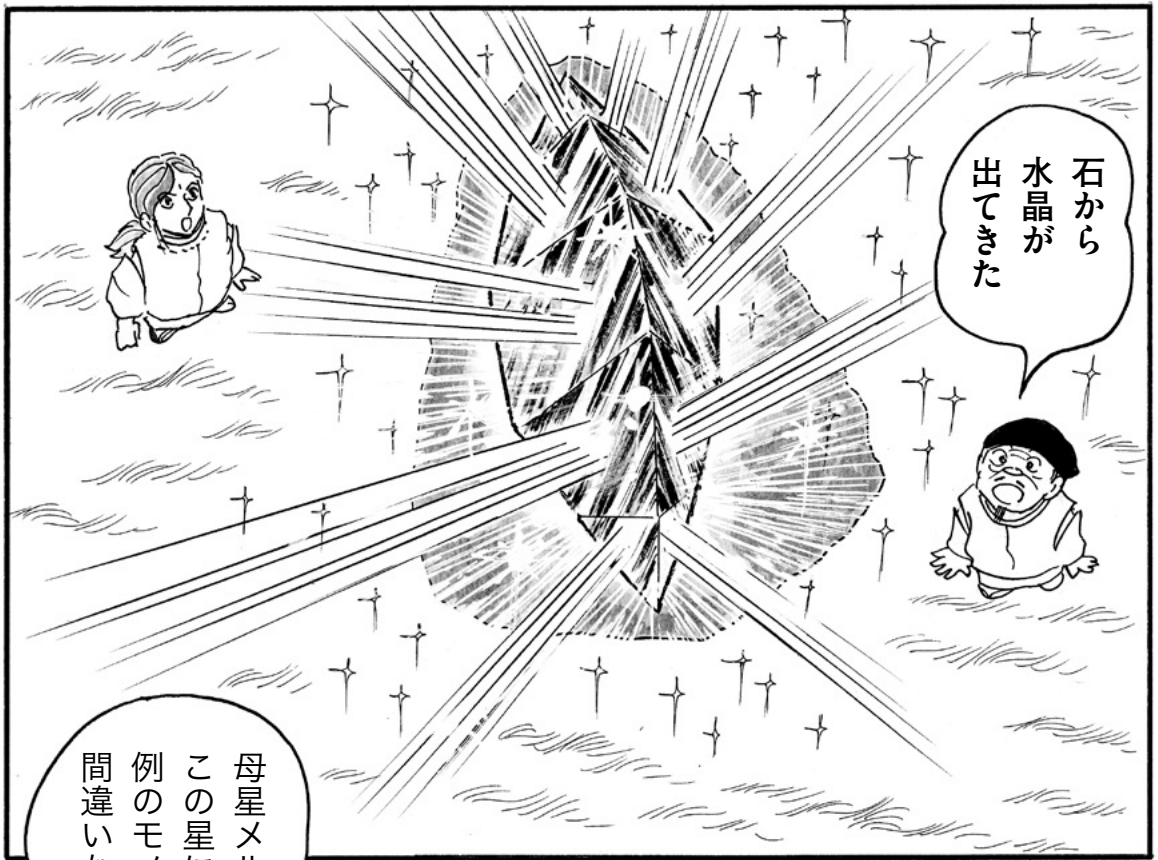
今から一年前の
大晦日の夜
西の彼方の空から
青く輝く物が森に
落下してきた
目撃した人達は
神が舞い降りて
きたと思った



その後落下した物が
石だと分かった

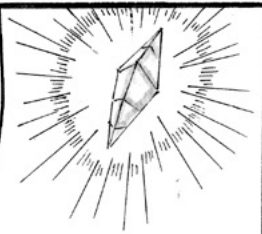
当初は話題にも
なつたが
日が経つにつれ
人達の脳裏から
忘れさられた





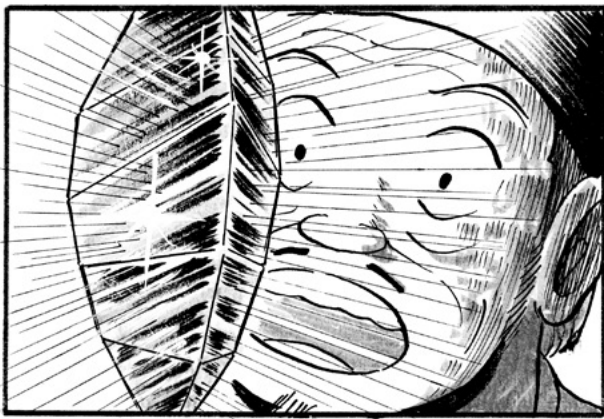
石から
水晶が
出てきた

母星メルシスが
この星に送ってきた
例のモノに
間違いはない



と言うことは
本物の青光石
ですよ

私が言った
通りじゃ
ないですか

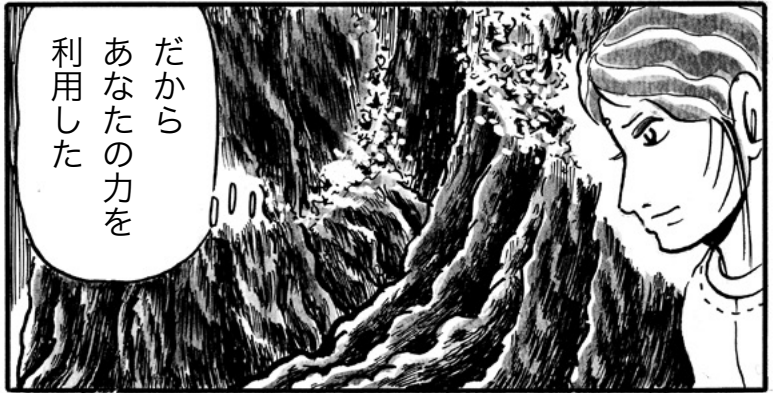




私はあなたを
監視するために
地球に送り
込まれた
あなただけが
青光石から
水晶を取り出す
呪文を知っていた



それには私が先に
青光石を入手する
必要があった



だから
あなたの力を
利用した



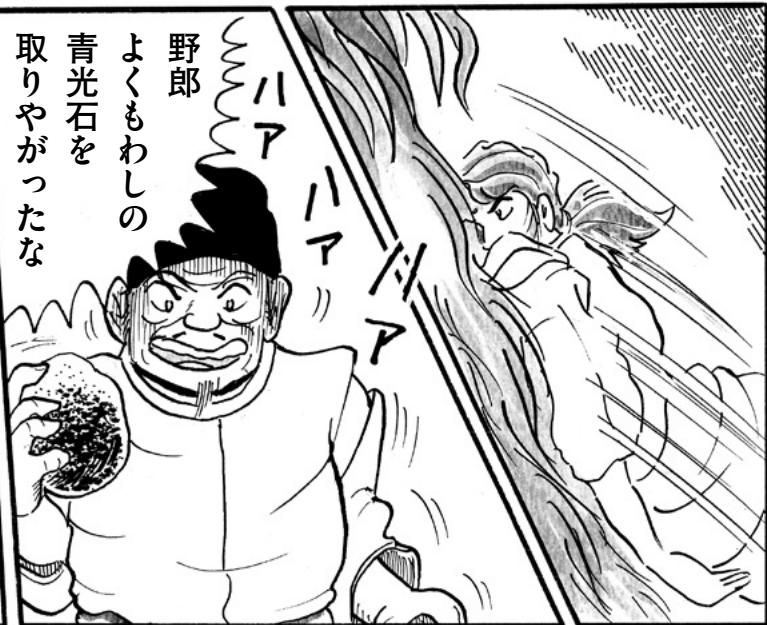
今までも
母星メルシスの
脅威となる星を
次々と消滅させて
きた

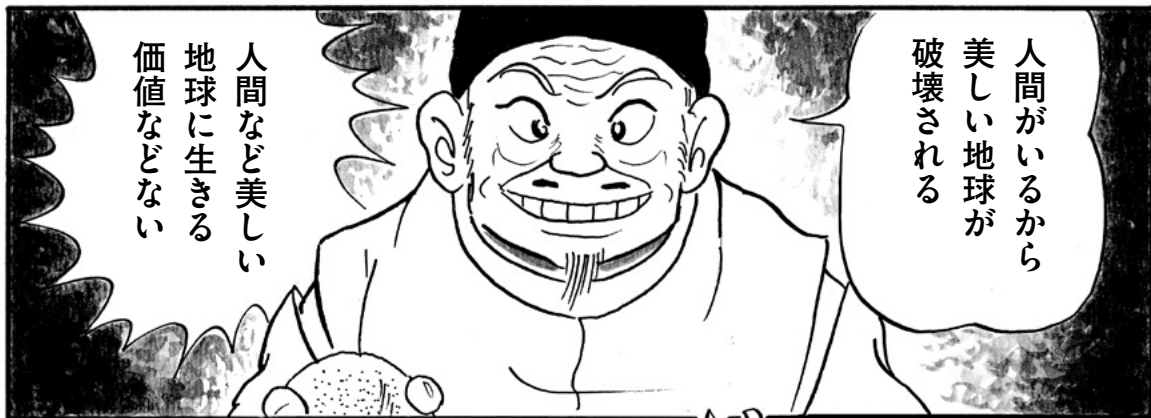


あなたは地球の人間が
高知識になるのを
恐れ地上から消滅
しようとしていた



人間なんてほっといても
いづれ滅びる
愚かな生き物
だがあなたは待てず
手を下そうとした





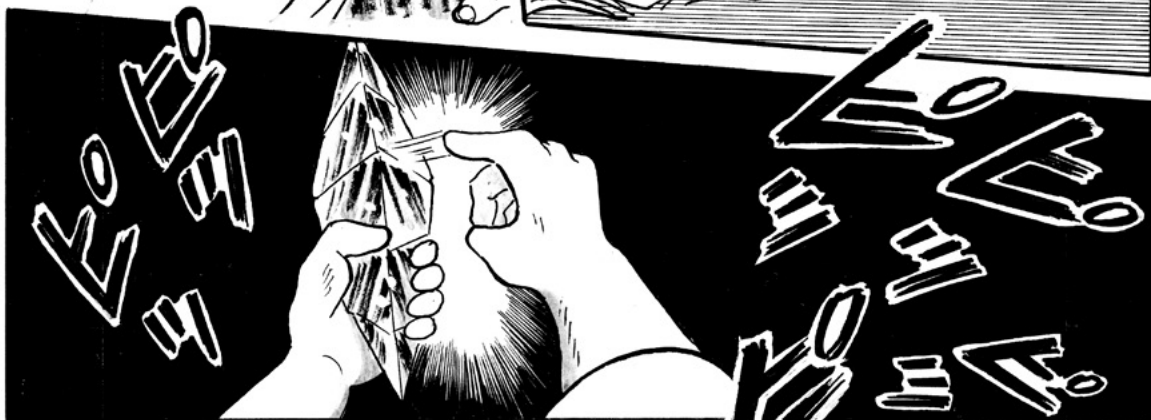
人間がいるから
美しい地球が
破壊される

人間など美しい
地球に生きる
価値などない



これ一個で
地球上の人間が
パツと消滅
するのだから
すごい

消滅時間を
一時間後に
セツトするか



実に楽しいじゃないか
わしの気持ち一つで
人間がいらない地球が
出来るんだから

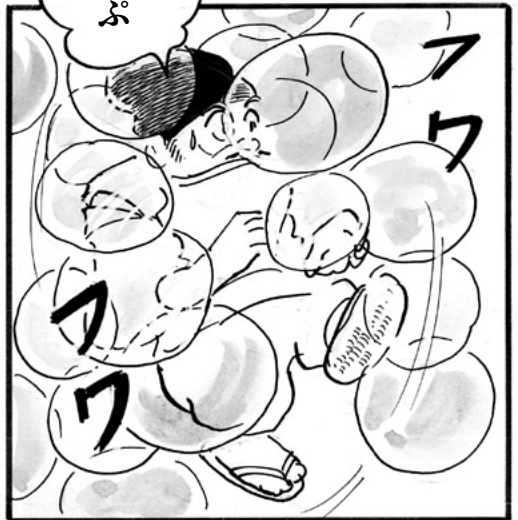
さて地球を後にし
次の目的地の星へ
移動するか

愚かで野蛮な人間ども
永久にサラバだ





私の可愛い子供達よ
その男を包み込み
母星メルシスへ送還しろ





さて始めるとするか
人間の日常生活を
詳細に記録するのを



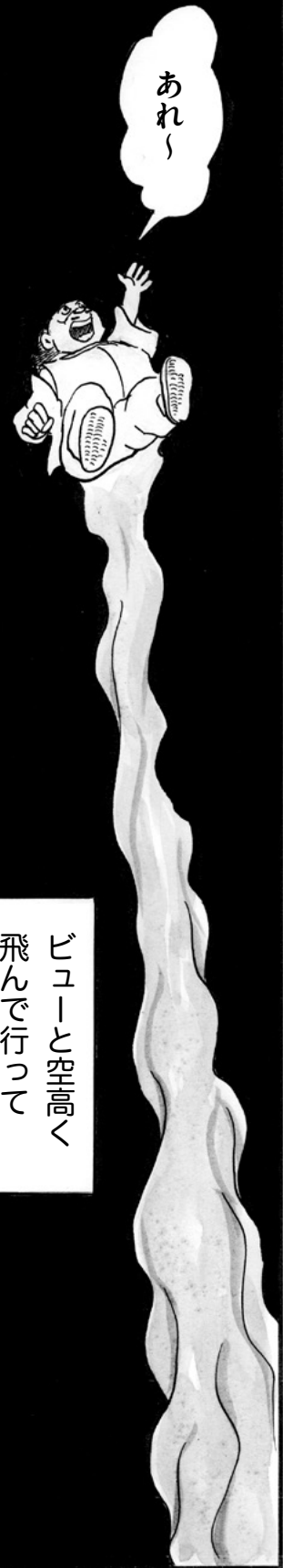
これから五十年間
人間観察をして
母星メルシスへ
レポートする
重要な任務が
あるからな



五十年間
彼のレポートを
読んだメルシス星の
最高評議会は
人間は心豊かで滑稽な
生きものだ結論づけ
地球をそのままにした
そして
そのレポートは
随筆集「つれづれ草」
として世に出たのでした
「つれづれなるままに
日暮…」ってね

完

ビューと空高く
飛んで行って
消えたのでした



あれ〜